

志賀原子力発電所 1号機 雨水等の流入防止対策の実態調査の報告について

平成28年11月7日
北陸電力株式会社

本日（11月7日）、志賀原子力発電所 1号機における雨水等の流入防止対策の実態を調査した報告書を原子力規制庁に提出しましたのでお知らせします。

当社は、10月24日、原子力規制庁より、志賀原子力発電所 2号機原子炉建屋内への雨水流入事象を踏まえ、1号機における雨水等の流入防止対策の実態を調査するよう指示を受けました。（平成28年10月25日お知らせ済み）

本日（11月7日）、下記指示事項に関する調査結果を取りまとめた報告書を原子力規制庁に提出しました。（添付資料参照）

2号機で発生した雨水流入事象については、地域の皆さまには大変なご迷惑とご心配をお掛けしていることにつきまして心からお詫び申し上げます。

2号機につきましては、現在、事実関係等の背景にある根本的な原因やそれに対する対策等の検討を行っており、結果については、まとめ次第報告する予定です。

1号機につきましても、水の浸入を防ぐ措置をしていない箇所について、今後、計画的に水密化を実施してまいります。

記

<原子力規制庁からの指示事項（10月24日）>

1. 洪水発生を想定した設計となっている場合は、防護措置を確認
2. 洪水発生を想定していない場合は、以下を確認
 - ・ 原子炉建屋の地表面もしくは地下部にある外部からの貫通部の箇所
 - ・ 上記の貫通部を通じた原子炉建屋内への水の浸入を防ぐ措置
 - ・ 水の浸入を防ぐ措置をしていない貫通部については、当該貫通部から侵入した水の影響を受ける可能性のある安全機能を有する機器・系統

以上

添付資料：志賀原子力発電所 1号機 雨水等の流入防止対策の実態調査結果（概要）

<参考>

志賀原子力発電所 1号機 外部溢水に対する防護対策の実態調査結果について（報告）

<http://www.rikuden.co.jp/info/attach/shika1chosa.pdf> [PDF1.6MB]

志賀原子力発電所 1号機 雨水等の流入防止対策の実態調査結果（概要）

1. 洪水発生を想定した設計について

志賀原子力発電所の敷地はなだらかな丘陵地であり、敷地南側に小さな河川（松戸川及び大坪川）があるが、敷地との間に尾根があるため当該河川が氾濫しても発電所に影響が及ぶことはないと考えており、志賀原子力発電所 1号機は洪水発生を想定した設計とはしていません。

2. 貫通部調査結果

a. 原子炉建屋の地表面もしくは地下部にある外部からの貫通部の箇所

箇所数：133箇所（表1参照）

b. a. の貫通部を通じて原子炉建屋内への水の浸入を防ぐ措置

貫通部133箇所のうち85箇所の貫通部には、水の浸入を防ぐ措置（モルタル充填、シリコンゴム充填等）が施されている。（表1参照）

c. b. において、水の浸入を防ぐ措置をしていない貫通部については、当該貫通部から侵入した水の影響を受ける可能性のある安全機能を有する機器・系統

非常用ディーゼル発電機制御盤、直流分電盤など

表1. 原子炉建屋貫通部の水密化処理状況

種類	水密化済みの貫通部の箇所 ／貫通部の箇所	実施状況
埋設貫通部	8 / 8	・建設時より水密化実施済み
RWトレンチ※ ¹	16 / 16	・福島第一原子力発電所の事故以降に津波対策として水密化実施済み
開閉所共通トレンチ	0 / 4	・建設時より水密化要求なし ・穴仕舞い仕様によっては水密性を有している箇所あり
SGTSトレンチ※ ²	11 / 17	
CSTトレンチ※ ³	35 / 60	
軽油トレンチ	5 / 14	
給水トレンチ	6 / 10	
排気筒モニタトレンチ	4 / 4	
合計	85 / 133	

※1 RWトレンチ：放射性廃棄物処理建屋と原子炉建屋を連絡する配管等のトンネル

※2 SGTSトレンチ：事故発生時、原子炉建屋内の放射性物質を活性炭、フィルターなどで除去し、放射性物質の外部放出を低減する非常用ガス処理系と排気筒を連絡する配管等のトンネル

※3 CSTトレンチ：炉心冷却水、燃料プール水等に使用する水を貯蔵するタンクと原子炉建屋を連絡する配管等のトンネル